

## 令和 7(2025)年度 島根県がん診療ネットワーク協議会 議事要旨

日 時 : 2026 年 3 月 2 日(月) 13:30~15:30

方 法 : オンライン会議(Zoom)

出席者 : 別添出席者名簿に加え、一般市民の傍聴があった。

### 開会挨拶

開会にあたり、島根大学医学部附属病院椎名病院長より、少子高齢化や治療法の多様化に対応した地域医療の構築、攻めの予防医療及び人生会議の重要性について言及した挨拶があった。

### 協議事項

#### 1. 島根県がん診療ネットワーク協議会設置要項及び組織図の改定

田村座長より、資料1に基づき、島根県がん診療ネットワーク協議会設置要項及び組織図の改定について、がん診療ネットワーク協議会の下部組織である「がん看護研修実務担当者会」の名称を「がん看護実務担当者会」へ、がん診療部会の下部組織である「がん診療部会WG」を「高齢者がん機能評価WG」へ、実務や協議に沿った名称に変更する旨の提案があり、了承された。

#### 2. 感染症のまん延や災害時等におけるがん医療体制のBCP

田村座長より、感染症まん延や災害時における医療体制の継続性を確保するためにBCPの構築が求められている旨、説明があった。

島根県では先ごろ震度5強の地震が発生したところであり、貴重な情報収集の機会であるため、資料2のとおり、県内のがん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院、がん情報提供促進病院を対象として、この地震に関するアンケート調査を実施する旨の提案があり、了承された。

### 報告事項等

#### 1. 島根県におけるがん医療の集約化・均てん化

田村座長より、全体像として、2040年問題に関する施策を厚労省が中心となって進めているところであり、がん医療においてはがん対策基本法以来、少なくとも拠点病院では標準的ながん医療を行うことができるよう均てん化に力を入れてきたが、最新のがん医療等が出てくる中、集約化すべき医療もあるのではないかとということで、島根県の中でもがん医療の集約化と均てん化について、ネットワークを通じて役割分担することが求められている旨、説明があった。

## 1) がん診療に従事する医師の適正配置

田村座長より、資料3-1に基づき、がん診療において医師の適正配置が求められており、島根大学医学部附属病院では「医師派遣検討委員会」が置かれ、県の行政の方にも入っていただき、毎月1回開催している旨の説明があった。

また、医師派遣検討委員会では、各領域の専門医・指導医の配置及び標準化に向けていかに専門的な医師を適正配置するかどうか検討して実施しており、2025年4月から2026年1月までの医師派遣数について報告があった。

## 2) 医療機関間の連携が必要な医療等の役割分担の整理と周知

田村座長より、資料3-2に基づき、日本全体で集約化すべき医療と、均てん化すべき医療を整理するよう求められているところだが、島根県でも、がんと診断された患者さんに不利益がないよう整理していく必要があり、その例として、集約化すべきものにはCAR-T細胞療法、ロボット手術、核医学等がある一方、がんの拠点病院で標準的に均てん化すべきものとして体外照射や定位照射などがあり、緩和ケアも含めて何を集約化して均てん化するか、今後さらに整理していかなければならない旨、説明があった。

また、一部対応できているものとして、希少がん・難治がんは島根大学医学部附属病院の肉腫・希少がんセンターが窓口となり、小児・AYA世代のがんでも島根大学医学部附属病院が小児がん連携拠点病院となっており、子どもとAYA世代サポートセンターもあるため活用いただきたいと紹介があった。生殖医療に関しては、5年前からがん生殖医療ネットワークを構築しており、がんゲノム医療についてもがんゲノム医療連携病院があるため、この中でも適切に患者さんをご紹介いただき、必要とされる患者さんの機会を奪わないようにすることが大切である旨、説明があった。

以上を踏まえ、今後各部会でさらに意識して集約化と均てん化の議論を行い、それを整理して公表していくとの方針が示された。

## 2. 各部会等の活動報告及び今後の予定

### 1) がん診療部会

田村座長より、資料4-1に基づき、2025年12月15日に開催したがん診療部会について、下記のとおり報告があった。

#### ①島根県がん診療連携拠点病院PDCAサイクルについて

- ・第4期島根県がん対策推進計画に基づき、県内のがん診療連携拠点病院で「拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化」、「セカンドオピニオンに関する体制」、「がん患者の自殺予防対策」、「高齢のがん患者及びその家族等の意思決定支援の推進」、「臨床倫理カンファレンス」の5つの目標を掲げて実施している。
- ・拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化については、各拠点病院で実施した地域連携クリティカルパスを評価し、種類と件数について報告があった。

- ・セカンドオピニオンに関する体制整備を各拠点病院で行ったことを評価した。また、診療情報提供書(Ⅱ)の算定件数についても報告があった。
- ・がん患者の自殺予防対策については、各拠点病院で自殺予防フローチャートを作成したこと、苦痛のスクリーニングの実施体制を整えたことを評価した。また、緩和ケア研修会の各拠点病院の受講率は高くなっている旨、報告があった。
- ・高齢のがん患者及びその家族等の意思決定支援については、各拠点病院で高齢者総合機能評価ツールが導入できたかを評価し、実施件数の報告があった。
- ・臨床倫理カンファレンスについても、各拠点病院で実施する体制ができたかについて評価し、実施件数の報告があった。

## ②がん診療部会WGIについて

- ・年に3回ほど会議を開催し、各拠点病院の高齢者がん機能評価の件数を報告していただいております。今年度は2025年10月27日に第1回がん診療部会WGを開催した。

## ③第18回・第19回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告について

- ・均てん化と集約化を議論する場としてタスクフォースが設置された。
- ・中央の方でがん登録等のデータが集約されており、その一部を地域の方へいただいております。集約化と均てん化の議論に資するという方向性が示された。

島根県健康推進課村下課長より、今後、県のがん対策推進協議会でも、国で上記のような集約化と均てん化の検討がされていると情報提供し、ネットワーク協議会及び関係機関と検討しながら、島根県にとってどのようなあり方がいいかご意見をいただいて、県としても進めていきたいと考えています。

そこで、各拠点病院のご出席の先生方から、特に今後医師の確保が厳しく、設備等も必要になる中、手術療法及び放射線療法の2点に関して、現在の状況と、将来にわたって外科医の確保をどうしていくかなど考えていることがあればご意見いただきたいと要望があり、各拠点病院から下記のとおり説明があった。

### 《島根大学医学部附属病院》

- ・化学療法、放射線療法、手術療法について、標準的なものや均てん化すべきものに関しては、医師数、設備共に充足している。

### 《島根県立中央病院》

- ・化学療法、放射線療法、手術療法のいずれにおいても体制を整え、現状適切な形で提供できている。
- ・外科医あるいはそれぞれの専門医の確保について、今後も努力していきたい。

### 《松江赤十字病院》

- ・薬物療法、手術療法について、標準的なものはできている。
- ・放射線治療について装置はあるが、放射線治療医が1人しかおらずIMRTがなかなかできていないため、もう1人放射線治療医がほしい状況である。

## 《松江市立病院》

- ・放射線治療について、がんセンターを開始した際、当時では山陰初となるサイバーナイフとIMRTを導入したが、思ったほど十分な数がないため、もっとご紹介いただきたい。
- ・手術療法について、泌尿器科と産婦人科、最近では消化器外科もダヴィンチを導入して実施している。
- ・化学療法について、以前は腫瘍内科を標榜する専門医がいたが、開業に伴って手薄になっている。

また、島根大学医学部附属病院椎名病院長より、今後医療人も少なくなってくるため集約化は非常に大事なことである。形骸化したことではなく、どの病院でどのような体制をとるか、お金や人材のこともなるため、ネットワークを介してしっかり議論し、体制を構築していくのが正しい方向だと思われる旨、指摘があった。

このことをふまえ、田村座長より改めて、何を集約化して何を均てん化するべきか、各部会で議論していただきながら集約していきたいと考えており、この1年間をかけて進めていく方針である旨、説明があった。

## 2) がん生殖医療ネットワーク

事務局より、資料4-2に基づき、がん生殖医療ネットワークには島根県におけるがん生殖医療に係る診療、研究及びその発展向上を通じて若年がん患者の妊孕性維持を図ることを目的として発足したもので、県内の拠点病院と推進病院が参加し、がん患者に対する生殖医療はすべてこのネットワークを通じて行っている旨の説明があり、下記のとおり報告があった。

### ①妊孕性温存療法について

- ・実施機関は島根大学医学部附属病院のみである。
- ・実施状況について、令和3年度から令和7年12月までに計52件実施され、そのうち28件で助成申請が完了している。また、カウンセリングのみの件数は10件であった。

### ②温存後生殖補助医療について

- ・実施機関は島根大学医学部附属病院と、精子を用いた生殖補助医療が可能な島根県立中央病院の2施設である。
- ・温存後生殖補助医療の実施状況について、令和4年6月から令和7年12月までに計12件が実施され、そのうち11件の助成申請が完了している。

### ③助成制度と助成申請状況について

- ・妊孕性温存療法について、助成回数は対象者1人に対して通算2回までとなっており、令和7年12月末までの助成申請件数は計28件で、この他に県外の医療機関で実施を受けた方の助成申請が12件あった。
- ・温存後生殖補助医療について、助成回数は対象者1人に対して通算6回までとなっており、令和7年12月末までの助成申請件数は計11件だった。

また、事務局より、都道府県がん診療連携拠点病院のHP内に島根県がん生殖医療ネットワークについて掲載されており、助成制度については島根県のHPにリーフレット等が掲載されているため活用いただきたいと紹介があった。

これらのことについて田村座長より、各拠点病院で情報共有をおこない、適応のある患者さんに等しく伝えられるようにして、必要があれば紹介をしていただきたい旨、話があった。

### 3) がん相談員実務担当者会

事務局より、資料4-3に基づき、患者やその家族が「治療や療養生活上の悩みが軽減している」と感じられるがん相談支援の実施を目標に掲げ、会議を開催し、下記のとおり取り組みをおこなっている旨、報告があった。

#### ①がん相談支援体制の連携と周知について

- ・診断時からの緩和ケアとして、告知後の患者さん等に医療従事者からがん相談支援センターの紹介を実施する、初回化学療法時の面接をフローに組み込む、生活のしやすさに関する質問票に基づく相談対応などの取り組みを行っている。
- ・希少がん患者の患者会やアピアランスケアに対する院内体制など、症例が少なく、知識や対応経験が蓄積されにくい相談等に関して部会で共有し、協議しはじめた。
- ・他県の取り組みについて、2026年1月28日に鳥取県のがん相談支援部会と情報共有の会を開催し、あわせて22名の参加があった。
- ・今後も、誰もが適切なタイミングで相談支援が受けられるような体制作りをめざす。

#### ②がんに関する情報提供体制の整備について

- ・相談員の連携体制の整備と強化をテーマに、ネットワーク協議会の27病院の相談支援担当者にデータ作成を依頼し、その情報を各病院の担当者へ配付して研修会でも活用し、連携体制の強化につながった。
- ・課題として、情報伝達の難しさが浮き彫りとなったため、今後の体制強化のために窓口機能の整備が必要である。

#### ③病院及び地域でがん患者・家族を支える体制づくりについて

- ・災害時の相談支援についての取り組みとして一歩踏み出すために、災害時にできることを考える研修として、2025年12月13日に令和7年度地域相談支援フォーラムin 島根を開催し、県内外から相談員を中心に44名の参加があった。
- ・フォーラム参加者からの感想を受け、島根県と協議し、しまねのがんハンドブックに災害対応情報を盛り込むことを検討している。
- ・患者サロン活動支援とピアサポーター養成・活動の場として取り組みをおこなっているが、サロン活動の後継者不足やピアサポーターの活動の場の確保など課題があり、病院のみの対応では限界もあるため、行政や地域と連携をとりながら、活動の場を広げていく必要がある。

#### 4) がん登録部会

事務局より、資料4-4に基づき、2025年12月22日に開催したがん登録部会について、下記のとおり報告があった。

##### ①島根県がん登録研修会について

- ・第38回島根県がん登録研修会について、松江市立病院が担当して2025年9月6日にwebで開催し、県内外あわせて55施設、120名の方の参加があった。
- ・全国がん登録研修会は全国がん登録の基本知識を中心に、オンデマンド配信にて通年で実施した。
- ・来年度は国立がん研究センターにて、全国がん登録届出施設を対象に説明動画が配信されるため、配信され次第、こちらの研修会をどうするか検討していく。

##### ②島根県院内がん登録解析報告書について

- ・島根県の院内がん登録解析事業として、院内がん登録を行う13施設にデータを提供いただき、2024年診断症例報告書を作成した。
- ・今年度から大田市立病院に参加いただき、県央圏域の情報も分かるようになった。

##### ③島根県院内がん登録PDCAサイクルについて

- ・今年度より、対象を拠点病院の5施設から拠点病院を含む院内がん登録実施病院13施設に変更した。
- ・内容について、これまで共通の課題だった「がん登録実務者の配置による業務の安定化」、「標準的で漏れの無いケースファインディング」、「院内がん登録データの活用」の3項目に絞って実施した。
- ・がん登録実務者の配置について、職員が少ない中でどのように実務者や有資格者を確保していくか検討が必要な施設が多くあった。
- ・院内がん登録データの活用について、どの施設でもデータ活用に苦慮しており、がん登録についてもっと周知していく必要がある。

##### ④島根県全国がん登録報告書について

- ・島根県内の全病院と指定診療所のデータを集計して2021年診断症例報告書を作成した。
- ・県民向けにダイジェスト版としてリーフレットを作成予定であり、完成後は島根県HPに掲載する予定である。

##### ⑤全国がん登録事業報告、2026年度島根県がん登録事業計画について

- ・全国がん登録2024年診断症例について、各病院と指定診療所をあわせて9006件提出いただいた。
- ・来年度の全国がん登録に関する年間計画について、2025年診断症例の提出が必要になるため、4月頃に提出依頼を発送し、9月末を提出締切りとする予定である。

### 3. がんに関する研修会等の開催状況

事務局より、県内のがん診療の向上のために、今年度開催した緩和ケア研修会、市民公開講座及び当院で開催したがん医療従事者研修会、緩和ケア地域連携カンファレンス、がん看護研修、がん相談員研修、がん登録研修の開催状況について報告があった。

### 4. がん診療連携拠点病院長等とがん患者団体等との意見交換

島根県がん対策推進室より、事前に患者団体等から提出された質問に対して拠点病院の病院長が回答する形で、意見交換を行う旨、説明があった。

#### テーマ1 病院の抱える課題について患者に伝えたいこと

島根大学医学部附属病院「ほっとサロン」及び雲南サロン「ひだまり」の小林さんより、病院の経営難がニュースとなっている現状において、病院側から患者側へ伝えたいことなどが無いか質問があった。

これを受けて、島根大学医学部附属病院椎名病院長並びに松江市立病院入江参与並びに浜田医療センター高橋がん診療部長より、下記のとおり回答があった。

#### 《島根大学医学部附属病院》

- ・働き方改革によって時間の調整が難しく、患者さんへの説明は土日になるべく控えて実施しており、待ち時間についても人員の調整や医療費後払いサービス、アプリの活用で改善をしているところだが、まだ時間がかかる。
- ・紹介状を持たず初診に来られる方について、できる限り柔軟に対応したいが、初診料が必要になることをご記憶いただきたい。
- ・患者さんに寄り添った医療ということで、治せる根拠があるため治療を提供しているといことをご理解いただきたい。
- ・医療人の常識が患者さんの常識とまらない部分があるため、その差をいかに縮めていくかが課題である。
- ・大学病院として赤字であってもやるべきことはやっていく必要があるが、補正予算等の申請は随時していくことであり、県からもできる限りの支援をいただき感謝申し上げます。

#### 《松江市立病院》

- ・診療報酬がプラス改定となるが、物価高、委託料や人件費の高騰などで、来年度、来々年度の試算をしてもなかなか厳しく、医療機器の新規購入も厳しい状況である。
- ・科によっては人材確保が非常に困難なところがあり、がん患者さんや新患の患者さんの受け入れに時間を要する、あるいは受け入れを断らざるを得ない場合もあるため、何とか人を供給していただいて解決していきたい。
- ・働き方改革によって、患者さんのご家族に対する説明等は土日を外して時間内でおこなうようお願いしており、土日は主治医ではなく担当の先生に任せるチーム制を導入しているため、ご理解をいただきたい。

### 《浜田医療センター》

- ・医療資源に限りがあるため診療の順位をつける必要が出てきており、場合によっては待ち時間等に発展することもあるかと思われるが、ご理解いただきたい。
- ・医療機器や人員の問題により全ての診療を当院で完結することが難しい現状で、場合によっては遠方の他院にお願いするなど、患者さんにとっては交通の便等が不便になることもあるがご理解いただきたい。
- ・医師だけではなく、その他の職種も含めて働き方改革を進めていく必要があり、場合によっては主治医が診ることが出来ない場合もあることをご理解いただきたい。
- ・信頼関係が必要であり、協力して治療を進めていくことをしていただけると助かる。

### テーマ2 がん患者と担当医師との意思疎通

がんピア・サポーター松浦さんより、医師とのコミュニケーションのために患者側がすべきこともあるのではないかと、医師側も様々なことを考えていると知る機会を持つことで人間味を持ったやりとりができるのではないかと考えているため、考えを聞きたいとの要望があった。

これを受けて、島根大学医学部附属病院椎名病院長並びに松江赤十字病院大居院長並びに島根県立中央病院金澤薬剤局長・臨床ゲノム医療推進室長より、下記のとおり回答があった。

#### 《島根大学医学部附属病院》

- ・現在は人生会議について言われており、そこには医師以外の他職種が介入していくため、以前よりはコミュニケーションが良くなったように思う。だが、働き方改革等もあり、意思疎通がとりにくいこともあると感じている。
- ・がんが治る時代になってきているため、攻めの予防医療をするのが第一で、皆さんと考えながら対応していく方向性にシフトしていくべきだと考えている。
- ・がんとは、ACPとは、人生会議とは、緩和ケアとは何かというところを広く地域に発信しながら対応し、今後の正しい医療、地域に寄り添った形の医療、個人の人生を考えながらウェルビーイングを求める形の医療提供ができればと考えている。

#### 《松江赤十字病院》

- ・医師は最終的に全部の責任を負う立場で心理的にも負担があり、最近はや早い時期からがん専門の看護師が同席をして患者さんご家族とお話する、薬について薬剤師が説明をするなど、医師の仕事の一部を様々な職種で分担することが進んでいる。
- ・患者さんご自身に説明しただけでは足りないこともよくあるため、ご家族への説明が大事であり、スタッフにもそのように伝えている。
- ・がんの相談窓口を設けており、ケースワーカーやがん専門の看護師が対応するため、不十分に思われた場合は気軽に相談いただきたい。

- ・深刻な対立に至った場合は、医療メディエーターが患者さん側と医療側のお互いの意見を聞きながら対応する制度も設けている。
- ・医師と限られた時間で面談をするにあたっては、あらかじめメモ等で要点をまとめてお話しいただくと、非常にいい対話ができると思われる。

《島根県立中央病院》

- ・告知は医療者側にとっても重く、年齢や経験だけでは乗り越えられないことがあり、相手の気持ちにどれだけ近づいていけるか、その中で医療者としてその方に必要な情報をいかに適確にお伝えするかの二側面がある。
- ・若い方から教育する立場の医療者まで、人に伝えることが難しい情報をどのように与えるか、コミュニケーションスキルの勉強会等を院内でも開催している。
- ・患者さん側に立った精神科医の話など、経験を十分に持てない部分に関しても、学ぶ中で自分の実体験とつなげて積極的に考えてもらえるような機会を作っている。
- ・個としてのトレーニングだけではなくチームで対応することが大事だと考えており、重要な話をする時は看護師、薬剤師、ケースワーカーと情報を共有して、できる限りその場にもう1人いていただき、医者のお話が終わった後のサポートをするよう努めている。
- ・患者さんに寄り添える医療チームとして今後も努力していき、知っていただきたいこと、理解していただきたいことを、時間をかけてご理解いただけるよう努力する体制を整えていきたい。

最後に全体を通して、島根大学医学部附属病院椎名病院長より、医療人としてはチームでおこなっているということを第一に、患者さんに寄り添って治療するということを堅持していかなければならない。

また、どの病院がいいというよりもチームでどれほどできるかを第一におき、個々人の大事な人生をしっかりと考えてあげられるような体制を整えるなど、様々なことを考えながら対応していく必要があるとの発言があった。